

# キエーロの使い方

## ☆ 毎日の作業



まずは・・・

生ごみを3～4日分ためる

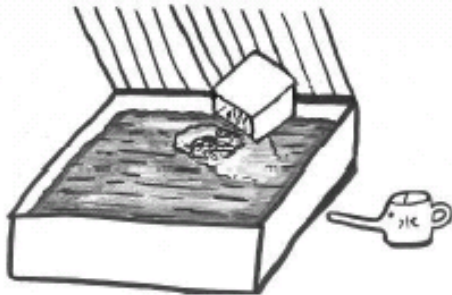
腐りやすいものは  
そのまま埋めます

生ごみをフタ付きの容器にためます。  
小さく刻めば、分解が早くなります。

毎日入れてもOKです。  
ただし、生ごみの量と  
埋めるスペースを考えながら・・・

\*ぬかと混ぜておくと、乳酸発酵するので夏場も腐らず、  
さらに分解が早くなります。

## ☆ 生ごみがたまったら・・・



### ① 穴を掘って入れる

深さ20cmほどの穴を掘って、ためておいた生ごみを入れます。

\*土が乾いている場合は、水分を加えると分解が早まります。



### ② 土と混ぜる

穴の中で周りの土とザクザクと混ぜます。大きな生ごみはこのときにシャベルで砕くと良いです。

\*適宜水を加え、生ごみと土とを混ぜてどろどろの状態にすれば早く分解します。

味噌汁、ドレッシング、油も大丈夫です。  
ただし、最後土をちゃんとかぶせてください。

虫がきちゅうよ～  
(これはダメ!)

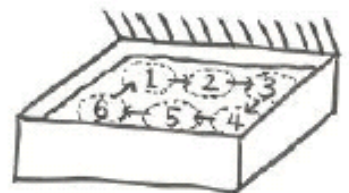
### ③ 土でおおう

上から乾いた土をかぶせ、生ごみを完全に覆います。そうすると虫の発生を防げます。夏場は10日間、冬は2～3週間ほどで分解されます。実際はもっと早く分解します。



埋める場所を変えて、これを繰り返す。  
一巡した頃には最初の生ごみは消えています。

(灰色の固まりになったらOK)



## 入れてはダメ!

薬品、プラスチック、吸い殻など人間が食べられないものは入れてはいけません。  
(バクテリアが消化できません。)

## 上手に使う4つのポイント

- 1** 大きなものは小さめに刻む  
例えば、キャベツの芯なら3~4個に。
- 2** 土とよく混ぜる  
生ごみに土がまんべんなく付くように。
- 3** 水分が50~70%  
手で握って固まるくらいがちょうどよい。
- 4** 乾いた土でフタをする  
外に生ごみの臭いがもれないように。

## よくある Q&A

### Q1. 生ごみが消えないんですが・・・

- A. 使い始めの頃は、微生物が活性化していないので時間がかかります。  
分解途中の物が少量残っていても、気にせずに次の生ごみを埋めて大丈夫です。  
小さくしてぬかをかけると分解が早まります。

### Q2. コロコロの土の固まりが残っているんですが・・・

- A. 2~3週間すると、生ごみはコロコロした灰色の固まりに変わります。これは、分解がうまくいっている証拠なので安心してください。固まりをよく切り崩すようにすると、次に生ごみを入れるときに使いやすいです。

### Q3. 土の表面に虫がいっぱい発生していますが・・・

- A. 生ごみが表面に露出していませんか？もっと深く埋めて、上に土をたっぷりかけて下さい。

### Q4. 土の中に虫がたくさんいたのですが・・・

- A. 投入時に生ごみと土をよく混ぜましたか？生ごみが固まりになっていることが原因です。そのまま土をかけて放置してください。生ごみが分解されればいなくなります。また、熱湯をかければ退治できます。

- 土の表面が乾き、中が湿っているのが良い状態です。中の土が乾きすぎると、バクテリアが生きていけないので、入れる生ごみはあまり水を切らず、食べ残しのソースなどもヘラで取って入れましょう。それでも中の土が乾いていたら、じょうろなどで水分を加えます。米のとぎ汁を入れるのもオススメです。
- 処理したあとの土は、家庭菜園などにも利用できます。